

『夜明く』

眠れないともがく布団の中  
いつそ夜へと飛び出していく  
時間は真面目で  
不良品の僕を置き去りに  
決まった通り進んでいく  
その速さについていけなかった  
静かな闇で、僕は独りで待っていた

明日は何もせずともやってくる  
そのはずなのに、眠れない

呼吸もできない  
肺は凍っていくばかり

それでも叶えたい夢があったから  
耐えて忍んで望み続ける

風がこめかみを通り  
踵が地面を蹴り出した  
あまりの自然さに思わず笑う  
瞼は重く辛いけど  
胸の苦しさは消えないけど  
仕方ないことだったんだとなんとなく思う  
頑張ることはもうできないけど  
工夫を凝らしていこう

眠れぬ日々は  
明日も  
その次の日もまた次の日も  
僕が負けるまで襲い掛かるのだろう

その度に  
午前五時の朝焼けと  
色づいていく空色に  
上を向いて出逢おう

——さあ、今、夜明く

---

夜明く

2025年2月24日 執筆

著者 やさかれない  
八坂 零

掲載 芸術の星座

---